

第 29 回 京都市西京まちづくり区民会議
摘 録

日 時 令和 3 年 6 月 29 日(火) 午後 2 時～午後 3 時 20 分

場 所 西京区役所 2 階 大会議室

出席者 (敬称略)

- ・ 井上 学 立命館大学アート・リサーチセンター客員協力研究員
- ・ 片岡 純治 新林学区自治連合会会長
- ・ 河原 裕 嵐山東学区自治連合会会長
- ・ 小石 敦子 西京区民生児童委員会副会長
- ・ 小石 玖三主 西京区自治連合会会長
- ・ 白須 正 龍谷大学政策学部教授
- ・ 東條 すえ子 西京少年補導委員会企画副部長
- ・ 中島 清隆 西京保健協議会連合会会長
- ・ 藤本 英子 京都市立芸術大学美術学部教授
- ・ 宮崎 秀夫 西京区長
- ・ 安田 桂子 西京区地域女性連合会会長
- ・ 安田 淳司 西京区洛西担当区長
- ・ 山本 義博 桂学区自治連合会会長

1 開会

事務局

(委員交代, 事務局担当交代報告)

2 西京区基本計画(案)について

(1) 西京区基本計画(案)への意見募集の結果について

事務局

(資料「西京区基本計画(案)への意見募集の結果について」説明)

小石議長

60～70 歳代の人から多く意見をもらったようだが, 30～40 代からもそれなりに意見をもらっていることはよいことではないか。

(2) 西京区基本計画(案)本冊, (3) 西京区基本計画(案)概要版

事務局

(資料「西京区基本計画(案)本冊」, 「西京区基本計画(案)概要版」説明)

小石議長

次期基本計画案については今回は最後の議論になるため、意見を賜りたい。

白須委員

P2の「京都市の行財政改革について」の記載だが、全ての区の基本計画に同じ文章で掲載されるのか。

事務局

全く同じ文章ではないが、同じ趣旨のものが掲載されると聞いている。

宮崎委員

計画案について、案の段階で市長に説明をした。市長からは西京区の現状を踏まえた上でまとめられていると高く評価してもらっているので報告しておきたい。

小石議長

P30の総合庁舎整備について、第1期工事はいつ頃になるのか。第2期工事に関連して、「令和20年」という時期が掲載されているが、夢が持てるように、第1期工事はもう少し早くからできるということが伝えられないか。

事務局

第2期工事は目安の時期を示しているが、先に完成する第1期工事の時期を表すことを検討したい。

小石議長

意見募集の結果資料について、よく分析してもらっている。様々な意見が整理されており、分かりやすくなっている。読み直してみると、こういう思いの人がいるということがよく分かった。各学区の連合会長には配布してもらいたい。個々の細かい要望だけでなく、区全体の意見として、こういった資料があれば読み直しができ、区民等の思いもよく分かる。

予算の関係もあり、全ての意見を実現することはできないが、少しでも実現できれば、よりよいまちになる。せつかくまとめてもらった労苦を有効に活用したい。

白須委員

産業分野を専門にしており、基本計画案ではP28の「7 地域経済活動の活性化と職住近接のまちづくり」が該当するが、内容としてはバランスがとれていると感じる。

農業も環境保全に役立つ産業。P24「5 田園環境の保全と農業の振興」の「地産地消の推進」もうまくまとまっており、全体的にもバランスよくまとまっている。

P28「6 京都の持続可能な発展につながる芸大跡地の活用と洛西ニュータウンの再生・活性化」について、P4で洛西ニュータウンの高齢化率が42.8%となっているが、相当な高齢化率と感じる。こういった状況の中で、P28のニュータウン関連の項目について、例えば住宅問題等は具体的に打ち出しているのではないか。

小石議長

洛西ニュータウンについては、サブセンターの活性化等、難しい状況になっているのは事実である。

中島委員

桂学区に住んでいるが、自宅の改修のため、しばらくニュータウンの竹の里団地にお世話になることになったが、仮住まいを探していても短期で貸してくれないことが多かった。また、URは保証金が不要であり、子育て世代の35歳までなら家賃減額等の特典がある。一方、高齢者に対してはよい条件と思えるものはなかった。若い世代をニュータウンに引き寄せるためにも、若い世代向けの特典等、もっとPRしてはどうか。

小石議長

あの手この手で若い人に戻ってきてもらいたい。西京区は当初は寝に帰るだけの場所となっていたが、今の時代、職住近接が実現することにより、家の近くで働くことができるのであれば、魅力になる。リモートワークもあるが、コロナの状況が変わると元に戻るのではないか。まだまだ一極集中が解消されていない印象がある。若い人に来てもらいやすい取組がPRされると有り難い。

片岡委員

意見募集について、公共交通や芸大跡地に関して多くの人から意見が出された。P27の「公共交通」やP28の「芸大跡地・洛西ニュータウン」について、もう少し具体的に書いてもらうことで、様々な人の意見が反映されることになるのではないか。

宮崎委員

白須委員、片岡委員の御指摘のとおり、洛西ニュータウンの活性化についての項目が2つとなっており、寂しい気がする。一方で、P28の「公園」には洛西竹林公園のプレイパークの取組や、P22「自然環境」では洛西中央緑地の取組が位置付けられている等、分散して掲載されている。再掲になるかもしれないが、洛西ニュータウンに関連する取組について見せ方を工夫することで分かりやすく表示することは可能ではないか。

安田淳司委員

P28「公園」のPark-PFIやP18「子育て・教育」の小中一貫校も洛西ニュータウンに関連している。URと協定を締結した事業もあるので加筆させてもらい分かりやすくしたい。

山本委員

意見募集で意見が多かったのは公共交通や高齢化に関する内容とあったが、これらの問題はリンクしていると感じる。芸大跡地の活用も京都駅周辺の活性化とも関連している。京都駅前には活性化して、西京区はそうならなくてもよいのか。決まったことに意見を出すつもりはないが、疑問が湧いてくる。ニュータウンが開発された際、地下鉄が通るという宣伝文句で多くの方が住むことになったが、今となっては地下鉄整備は現実的には難しくなっており、若い人は交通利便性のよい所を求めてニュータウンから出て行ってしまい、一層高齢化が進む。人口減少は交通の利便性にもつながっているのではないか。

地下鉄が難しいのであれば、例えば路面電車やコミュニティバス、LRT等について、将来的に考えて

いる、といったようなことが位置付けられないか。

多くの人から公共交通についての意見が出されており、将来に希望が持てるような内容が掲載できないか。希望が持てる西京、住みたくなる西京、若い人が入って来られて、子どもが大きくなっても住んでもらうことができる西京にするため、そういった項目も入れてもらいたい。

片岡委員

芸大跡地について、具体的な展望を描いてもらえると希望が持てるのではないか。

山本委員

芸大跡地の活用次第で洛西ニュータウンを活性化できる。まだまだ計画段階といわれるが、大きなウエイトを占めていると考えている。

安田淳司委員

芸大跡地は活性化の大きな核である。

交通問題については、人口が減少する中でバスの維持も厳しいが、知恵を絞り、利便性が高いダイヤの検討等、新たな交通システムも含めた検討が必要と考え、重点取組に位置付けた経緯がある。

具体的な内容を書き出すことは難しいが、重点取組として頑張っていきたい。

井上委員

今回の基本計画案について、よくまとまっており、これ以上手直しはないと考えている。

計画ができてからが西京区の新たなスタートであり、そちらの方を考えたい。

意見募集の内容をみると、「こんな町にしたいので〇〇して頑張ります」という意見があり、期待が持てる。こういった意見がうまく反映されていると感じる。

一方で、相変わらず「〇〇してほしい」というモードで提出されている意見も多い。今後はそのようなスタンスでは物事がうまく進まないということを説明していく必要がある。人口が減り、財源も減ることが明らかな状況で新しいものができるのか、考えてもらいたい。住んでいる人も何ができるのか、一緒に汗をかかねば続かないということを説明すべきである。

本冊 P4 の「西京区の人口」は国勢調査の確定値が公表されたら反映してもらいたい。速報値において、大阪・神戸の中心部の人口は 5%程度増えているが、京都市はあまり増えていない実態がある。中京区と下京区が 0~2%程度、南区は 4%程度増加。向日市、守山市、大津市、木津川市、京田辺市等は京都市からの転出人口も受け入れており、人口が増加している。一方で、京都市からは、0~4 歳人口が毎年 500 人程度周辺都市に転出している。

このような状況の中、財政が厳しい。まちづくりを考えるなら住んでいる人が汗をかくしかない。不転居の決意をもってまちづくりについて考えていかねば、西京区に限らず、京都市はますます誰も住まなくなる恐れがある。

公共交通の利便性が向上しても人口増加に直結しない可能性がある。

東山区は交通利便性が高いまちではあるが、高齢化率が高く人口が減少している。公共交通の利便性だけが人口増加の要素ではない。

幸い、ダイヤ改正でヤサカバスが増便、市バスの減便も最小限にとどまっている。今後、市全体でバスの調整が必要であり、本数は減少するが利便性向上のための方策を考えねばならない。様々な工夫

で公共交通を取り巻く環境も変わってきており、「進んで利用せねば」という意識をつくっていかねければこれからの公共交通は厳しい。是非、この状況を地域で共有してもらいたい。

一方で未来が明るい要素もあり、小中一貫校や公園の充実等は子育て世代には魅力的な施策である。シンボルとなる公共交通のイメージづくり等、まち全体のよいイメージが打ち出せるよう、計画を活用してもらいたい。

小石議長

西京区に関して気になることがある。食べ歩きガイド等、食に関するガイド等が出版されているが、西京区に関する情報が非常に少ない。区民の90%くらいが夕食を外食する際、区外を利用しているとのデータがあった。高槻市の人は80%くらいが市内で、茨木市は50%弱となっている。

山本委員は桂学区で自治会の会員証を持って外食に訪れると割引が受けられる、といった新しい取組にチャレンジしており、大事なことと感じる。

みんなで努力してガイドに掲載されるようなことを考えていかねば、ますます厳しくなる。寝に帰るだけの区を返上したい。

職住近接ができる西京区や飲食だけに限らず、広く西京区の魅力等について考えていかないと西京区に若い人が来てもらえない。共通の意識として持つてもらうことが重要である。

藤本副議長

吹田市在住であるが、例えば近くにケーキ屋ができたら皆で買いに行こうと呼びかけている。地元消費へいかに力がかかるかが大切ではないか。

市内から人が減っているという意見があったが、インバウンドで都心の地価が上昇し、その状況が反映されている。

しかし、リモートワーク等コロナで状況が変わってきている。交通が不便な面もあるが、緑や山があり、環境が良好で豊かなまちとも言える。これから西京区が頑張る時代ではないか。

全国統計では駅前の人気は低下している。環境や風景がよい場所に住みたいというニーズが高まっており、ニュータウンにも当てはまるのではないか。ただ、教育環境や医療等の面からは、あまり田舎過ぎてもいけない。

また、まちなかを実際に巡るショッピングも求められている。そういう意味ではニュータウン内のデパート等は大事にしてもらいたい。お互い様で地域が良くなるということは、そういうことである。

今回の基本計画は素晴らしいものであり、時代も変わってきていることから、西京区には追い風であることを意識し、元気をつけてほしい。

山本委員

元気の源として、芸大跡地活用もある。

小石議長

シンボリックなものができるかどうかで大きく変わってくる。西京区にインターチェンジがあることが周知されつつあり、車や人の流れが変わってきている。通過するだけのまちになると何もならない。そのインパクトを受け止める力が必要である。

これまでの意見を踏まえ、計画案の最終の取りまとめについては、議長・副議長と事務局との調整に一任してもらえるか。

委員一同

異議なし

3 その他

(1) 西京区地域力サポート事業について

事務局

(「西京区地域力サポート事業補助金交付一覧」説明)

(2) 行財政改革計画(案)について

事務局

(「京都市行財政改革計画(案)」説明)

4 閉会

事務局

令和元年から区民会議で取り組んできた基本計画の議論は今日で最後となる。最終案を取りまとめ、8月には完成した計画を手元に届けたい。

また、委員任期は7月末で終了となる。上田委員、片山委員、小石敦子委員、鈴木委員、深川委員、吉田委員は本日が最後の区民会議となる。これまでの間の活動に対して御礼申し上げる。

以上